

卒業生代表 答 辞

霞ヶ浦の水面に柔らかな日差しが煌めき、静かに春の訪れを感じられる季節となりました。本日は、諸先生方並びに保護者の皆様の御臨席のもと、厳肅な中にも心温まる卒業証書授与式をここに挙行していただけますことを、卒業生を代表致しまして、厚く御礼申し上げます。

また先程は、下田校長先生や在校生代表による激励のお言葉を賜り、卒業生一同、身の引き締まる思いでございます。重ねて御礼申し上げます。

124日。この数字は、3年間で私たちが学校に登校できなかった日数です。本来であれば3年間で600回以上、学校の門をくぐるはずでした。しかし、度重なる臨時休校や遠隔授業によって、高校生活の約5分の1もの時間を、自宅や寮で過ごすこととなりました。

本当ならば、この場では、3年間の高校生活における数々の輝いた思い出を振り返り、感慨に浸るときであると思います。しかしながら、私たちが過ごした3年間は、そのすべてが光り輝いていたとは言えません。

1年次の3学期、突然の全国一斉休校措置がとられました。当時の私は、正直「学年末テストが中止になった。」その程度の認識でした。ところが、連日の報道を見る中で、次第に大きな不安を感じるようになりました。

そして私たちは厳しい社会情勢に流されるように進級し、歩く会、帆掛祭、修学旅行・・・、端からそんな行事は存在しなかったかと勘違いするくらい、どこか穴の空いたような2年目を過ごしました。

この穴を埋めて下さったのは、他でもなく、私たちの学年の先生方です。皆さんは憶えているでしょうか。2年次の定期考査終了後、緊急で学年集会を行うと言われ、私たちは附属中学校体育館に集められました。その时期的に、多くの生徒が修学旅行の「中止」を言い渡されると悟っていた中、藤岡学年主任の口から発せられたのは、修学旅行「延期」という言葉でした。

藤岡先生率いる私たちの学年の先生方は、私たち以上に、諦めの悪い先生方でした。その諦めの悪さは、私たちへの愛情であったと実感しています。学校行事が当たり前のように中止されていく中で、日々代替案を模索し続けて下さいました。沖縄体験プログラム、カズオカップ、富士急ハイランド遠足、校内eスポーツ大会、リモートお笑いライブ。これらはすべて、私たちには経験できなかったことです。

学校行事に限らず、日々の学習指導から部活動、進路指導など。時には夜遅くまで私たちに寄り添い、手厚くサポートをして下さいました。私たちが失ったものは大きなものであったかもしれませんが、それに勝る学びを得ることが出来ました。有難うございました。

そして、忘れてはならないのが、どんな時でも温かく見守り、支えてくれた家族の存在です。毎朝のお弁当や送り迎えに始まり、特に最後の1年間は、就職や専門学校、大学への進学を目指す中で、大変な心配と迷惑を掛けてしまったことと思います。先の民法改正に伴い、ちょうど1ヶ月後の4月1日には、私たちは法律上の成人となります。これまで支えてくれた家族への感謝を忘れず、今度は私たちが誰かを支えていけるような大人になれるよう、日々精進していくことを誓います。

入学式の御式辞で、下田校長先生から「今日から皆は『チーム霞ヶ浦』の一員だ!」という言葉をいただきました。私たち卒業生511名は本日をもってこの霞ヶ浦高等学校を離れることとなりますが、卒業してもずっと「チーム霞ヶ浦」の一員として応援し、見守り続けてまいります。そして、先生方や先輩・後輩、共に過ごした仲間、家族、地域の皆様。挙げればきりがありませんが、お世話になりましたすべての「チーム霞ヶ浦」の皆様に改めて感謝申し上げます。本当に有難うございました。

結びとなりますが、皆様方の益々の御活躍と御多幸をお祈りするとともに、霞ヶ浦高等学校創立100周年に向けた一層の御発展を祈念致しまして、答辞とさせていただきます。

令和4年3月1日

第73回卒業生代表

種田 貴志